

2007 年上海海事大学攻读硕士学位研究生日语入学考试试题

(注: 答案必须做在答题纸上, 做在试题纸上不得分)

一、用平假名写出下列汉字的读音 (10%)

1. 郵便屋 2. 万年筆 3. 勉強家 4. 文房具 5. 誕生日
6. 自転車 7. 運動会 8. 愛読書 9. 絵葉書 10. 歌舞伎
11. 喫茶店 12. 謙遜語 13. 再来週 14. 洗濯機 15. 雰囲気
16. 暴走族 17. 冷蔵庫 18. 食生活 19. 不思議 20. 選択肢

二、把下列平假名改写成日语汉字 (10%)

21. えいが 22. ごらく 23. そうに 24. けいかく 25. しよくぶつ
26. おせん 27. つごう 28. きこう 29. おんがく 30. しょうとつ
31. がっき 32. ざっし 33. ぶっか 34. じゅんぴ 35. さいなん
36. ぐあい 37. さむけ 38. にもつ 39. しなもの 40. ふくざつ

三、用平假名填空, 每空一个假名 (10%)

41. 天気の良い日 () () この窓 () () 富士山が見えます。
42. 今年の夏はいつも () () 早く来ました。六月に入ってから、() ()
毎日暑くて堪りません。
43. 昨日 () () () の時間に家を出ました。しかし、電車は () () ()
待ってもなかなか来ませんでした。
44. 天気さえよければ、郊外へ遊びに行く ()、昨日李さんたち () 約
束しました。
45. 私達が () () () 困ったことがあると、先生は () () () 姉のよ
うに手伝ってくださったのです。
46. 今では簡単な会話 () ()、できるようになりましたが、自由に話
せる () () まだ時間がかかると思います。
47. 古い都として、国内外 () 知られている京都は一年中観光客 ()
にぎわっています。
48. 見る () () ものがまだいっぱいあって、今日は () () その一部
を見たにすぎません。
49. 買い物 () () 言えば、銀座 () () 便利なところはないと言っ
てもいいくらいです。
50. 人気のある映画 () () ()、切符はなかなか手に入れません。昨日
() () () 友達から一枚もらいました。

四、把下列词组译成日语 (25%)

51. 请收下 52. 肚子饿 53. 合口味 54. 回头见 55. 受欢迎
56. 作笔记 57. 有用处 58. 起名字 59. 添麻烦 60. 订报纸

五、用敬体把下列句子译成日语 (25%)

61. 还没看今天的报纸。
62. 你正在唱的歌是日本歌吗?
63. 我不知道她不会英语。
64. 他正在学习的外语不是英语, 也不是日语。
65. 我早就想对你解释了。
66. 他的家离火车站不太远又不太近。

67. 是你来或是我去。
68. 单词是越多越好。
69. 有时会在朋友家吃饭, 可是不会在那儿过夜。
70. 来东京的人没有不去银座的人吧。

六、 把下列短文译成汉语 (20%)

71. 少年のころ、私の住んでいた家には落葉松がありました。雪がやっど消えて、春が訪れると、いろいろな木が芽を吹き出します。落葉松も、小さな丸い芽を出します。その側に近づいていくと、芽の香がするのです。
72. 私は春を確かめるような気持ちで、幾つも芽を摘み取ったり、手のひらに擦りつけたりしました。そして、木の芽の匂いを嗅いで季節を感じるなどとは私一人だろうと思っていました。
73. ところが、ある日、わたしが父と野原を散歩した時のことです。野原にはさまざまな雑草が生えていました。「これ、なんだか知っているか。」父は一本の野草を取って、私の目の前に突き出しました。「知っている。」「なんだ。」「蓬(よもぎ・艾蒿)だよ。」
74. 父はちょっと笑ってうなずき、それから、こんな話をしてくれたのです。「草の匂いを嗅いで、その季節を楽しむのは昔も今も変わらんな。」「昔って、いつごろ。」「大昔からさ。千年も前に清少納言が書いた『枕草子』という本にも出ている。」「どんなことか。」「牛車に乗って山里に行く途中、車の輪に踏み潰された蓬の匂いがただよってきたというんだよ。」
75. この話を聞いて、私は清少納言という人が千年もの歳月を飛び越えて、いっぺんに身近にやってきたように感じました。それから、数年経って、十四、五のころ、父について「枕草子」や「万葉集」を読むようになりました。
76. そうして、これらの中には季節感が至る所に盛り込まれているのに驚きました。父はもし日本人の心に季節感というものが流れていなかったら、日本の文学は味わいの乏しいものになっただろう、特に、短歌や俳句などは生まれてこなかったかもしれないと言いました。
77. そんなことで、私はいつの間にか国文学に取り付かれ、日本の古典といわれるものに触れるようになりました。そうして、触れれば触れるほど、日本人の季節に対する感じ方の細やかさや鋭さなどに心を引かれるようになったのです。
78. 最近ビニルハウスが沢山作られて、花でも野菜でも果物でも、年がら年じゅう栽培され、収穫されて、いつでも目に触れるようになりました。私たちの少年時代は菊と言えば秋の花であり、トマトと言えば夏のものと思っていたのですが、栽培法が進むとともに花や野菜の季節感もいくらが違ってきたように思われます。
79. そのうえ、道路を作るために、川や畑が埋められ、団地建設のために、山野や森林が削られてしまい、野鳥の声も遠くなり、木々の緑も疎らになって、四季おりおりの趣も消えていく感じですが、しかし、私は必ずしも悲観はしません。
80. というのは、次々に近代化されていく都市や農村の風景にも、また流行の移り変わりの激しい風俗にも、新しい年中行事の雰囲気にも、今までになかった初初しい季節感を発見するに違いないと思うからです。大昔から養い育てられ、日本人の心に生まれている季節感の根はそう易々と枯れてしまうものではないと信じていますから。